

リサイクル
クリーン

ボイラー稼働睨み、RPF工場新設 集荷拠点と需要地近接の立地活かす

浜松市の産廃業者であるリサイクルクリーン(藤城太郎代表取締役社長、静岡県浜松市天竜区二俣町二俣四一)を訪問し、今年三月に稼働を始めたRPF製造の袋井工場を見学した。同社は、建設廃棄物処理や建物解体工事から自動車解体、資源回収まで幅広い事業領域を手掛け、浜松を起点に事業を展開してきた。RPFを製造する施設は五百六十坪の広さで、最大四千二百トンのRPF生産能力を有し、六億円を投資した。日本のへそ、営業に利点――

ラーが導入されることを睨み、今年三月にRPF製造の袋井工場を立ち上げた。

既存の産廃工場の隣地にRPF工場を増設。土地や設備を含む投資額は六億円に

上った。もともとRPF原料となる混合プラの産廃を月間七百トン処理していたことや、富士までの距離的なメリットも後押しした。RPFの製造は、安定した原料をいかに調達できるかがカギ。生産量を伸ばす

ため、今後は営業を強化し、外部からRPF向け原料の調達量を増やす。袋井は日本列島の「へそ」といえる中央部。関東―関西間を行き来し、処理費が割高となっている産廃を、コスト削減を訴求して袋井で受け入れる考えだ。今春に十一名を新卒採用しており、女性も起用するなどして営業攻勢をかける。現在、袋井工場は八〜十



リサイクルクリーンのRPF工場外観



工場は五百六十坪の大きさ



自社ルートでの七百トンの廃プラが主原料に



廃棄を多用。協力会社三十社から集まる

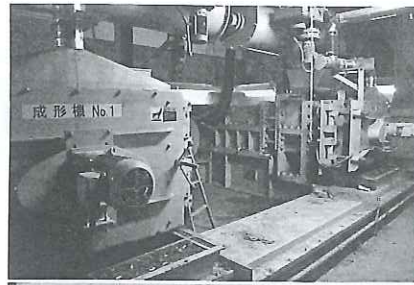
六時間の稼働で、月間八百〜千トンほど生産している。月間最大四千二百トンまで生産が可能。将来的に原料の納入が増えれば、三交代制による二十四時間稼働を実現させる。製造工程は、①原料をホッパーに投入、②破碎機で六十ミリメートル以下の大きさに破碎、③ふるいで砂状分除去、④磁選機で金属除去、⑤ドラム磁選機で再度金属を除去、⑥定量供給機で均等に混合、⑦二台の押し出し型成形機でRPFに加工、⑧RPFの温度を下げるため、水沈コンベアーで冷却、⑨RPFが貯留ピットに移される。押し出し式の成形機は金属に強いのが特徴だ。

廃棄を古紙代わりに多用原料に使用するのは、廃プラが約五〇%、畳が約五〇%。古紙は安定的に入る。古紙が難しく、畳が紙の代替え原料になっている。袋井工場に入る廃プラは、原則的に他の工場では選別処理を施した後、ベールまたはバラの状態を袋井工場に搬入される。廃棄は、同社が解体業を手掛けているほか、解体系の協力会社三十社から調達している。四つの産廃工場を手選別を施して、塩ビなどを除去し、さらに袋井の既存工場に導入したパリオセレーターで重量比による精選別を行う。ここで可燃性と非可燃性のプラを分けている。他工場は選別機能をもっているだけ

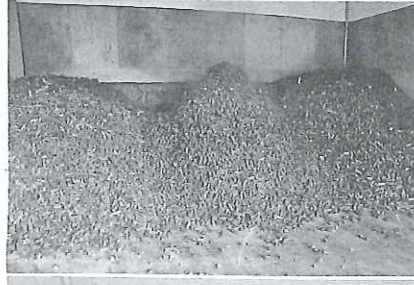
でなく、ストックヤードを兼ね、それによって袋井工場は、最低限の原料だけで運営が可能となっている。なお、同社のRPF既存施設として大川工場と桜台工場がある。それぞれ月間百トンほどのRPFを生産していた。大川工場では時間一トンの生産能力。桜台工場はM&Aにより取得した工場で、時間二〜三トンの生産能力がある。桜台だけは、小径のリングタイプのRPFを製造する。全量を王子に納入

RPFは成形後に自然発火することもあり、防火設備が欠かせない。袋井工場には七台のライプカメラを備え、常時、内部の様子を遠隔監視できるようにしているほか、集塵機、ミス、シートシャッターを備えている。ピットに入るRPFの温度は四十度以下に抑え、六十度以上に上昇すると散水装置が作動する。袋井工場で製造したRPFは、全て王子マテリア富土工場に販売。二十五トン車両で一日二回、計約五十トンを含めて納めている。他工場のもは一部、特種東海製紙に販売している。袋井では蛍光文線による成分分析器を導入して、一時間に一回、塩素分と硫黄分を検査。塩素はボイラーの配管を腐食し、硫黄は配管にこびり付くため敬遠される。RPFの品質は、他にカロリーや灰分、含水率が考慮される。塩素分が出やすいのは、

の許認可をもとに事業を展開しながらも、社是のひとつに「資源を大切にしましよ」とあるように、資源化に重きを置いている。古紙の扱いは、浜松営業所にベラーを一台備え、月間千五百トンほどの扱ひ量がある。他工場にも計四台のベラーがあるが、主に廃プラを梱包するために使用。古紙の販売先は、段ボールや機密書類は主に興亜工業に納める。新聞や雑誌などは商社経由で国内メーカーに納入。RPFの大半を王子向けに納めているものの、古紙は直接、王子向けの販売がない。このようにRPFと古紙では取引慣行も違うため、納入先が異なることも少なくない。



押し出し式の成形機



RPFの貯留ピット。六〇度を超えると散水装置が作動



蛍光X線による成分分析器

(株)リサイクルクリーン 会社概要

設立	1987年(昭和62年)
代表者	代表取締役 藤城 太郎
本社	〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣41 TEL (0539) 25-1366 FAX (0539) 25-6030
資本金	8,200万円
年間売上	46億円(2013年実績)
事業内容	リサイクル関連事業・産業廃棄物収集運搬処分・一般廃棄物収集運搬・資源回収・清掃業・建物解体業・自動車小売業・損害保険代理業・不動産業・医療系廃棄物・バイオ・ディーゼル燃料・機密書類リサイクル・RPF製造
工場	第一工場・第二工場・大川工場・浜北工場・磐田工場・袋井工場・浜松営業所・岡部工場・協同センター・桜台工場